

第一章 自然環境

第一節 位置・町域

一 位置

第一節 位置・町域

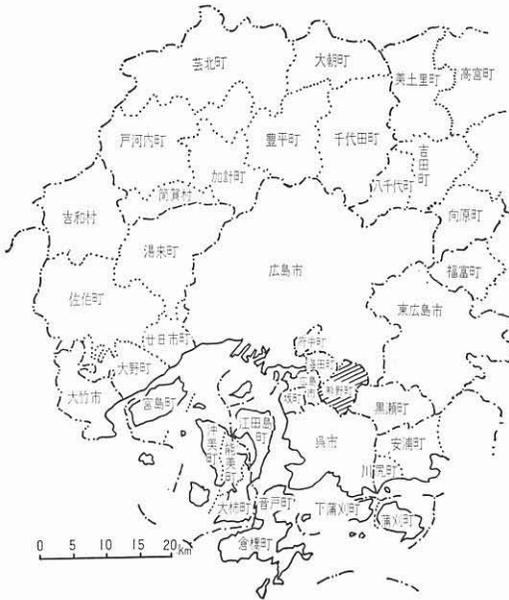


図1-1-1 熊野町的位置

位置の概観

熊野町は広島県西部・安芸郡にある町で、広島市から東南

東へ約二〇キロ、呉市から北へ約一二キロの地点にある。役場の位置で北緯三四度二〇分〇六秒、東経一三二度三五分〇六秒、標高二二・五メートルである。

町の南は呉市に接し、東側は黒瀬町に、北から西にかけて広島市阿戸町、瀬野川町、矢野町に接している。北西の一部は海田町に接している。

自然的位置

自然的には四囲を山地に囲まれた盆地で、標高約二五〇メ

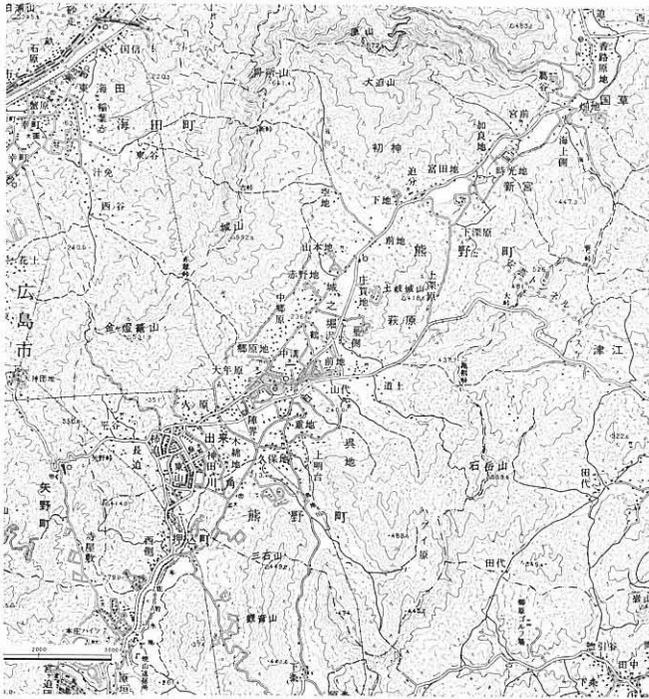


図1-1-2

トトル内外である。盆地も周囲の山地も、北東―南西方向の断層に支配されている。北東から南西にかけて熊野町と広島市瀬野川、安芸郡海田町、広島市矢野町を区切る山地は鉾取山、天狗坊山、城山、金ヶ燈籠山など七〇〇〜五〇〇メートル内外の山が続き、矢野峠の切れ目を経て絵下山へ続いている。

町の南側で北東―南西方向の山地は、賀茂郡黒瀬町と境を接しているが、石岳山など北側の山地に比較するとやや低平で五〇〇〜四〇〇メートル内外の山地となり、随所に峠があつて、断絶した山塊となっている。盆地の北と南は断層線の延長上にあることもあつて、丘陵性山地となっている。

交通的位置

盆地と周辺地域を結ぶ交通路は、北東方向の熊野

川河谷に沿って広島市阿戸町に至り、瀬野川河谷に合するルートがあり、南西は、谷中分水によって南流を始め二河川に沿って、呉市に至るルートがある。このほか西方は矢野峠の鞍部を経て広島市矢野に至るルートがあり、このルートがもっとも重要である。しかし、山地がけわしく、重要なルートが交通不便であるのも、皮肉なことと言わねばなるまい。南側の黒瀬方向は、いくつかの峠で結ばれているが、大峠が県道も走り、もっとも重要である。このほか苗代に至るルートなどがある。

こうしたルートによって町の外方地域と結ばれているが、前述したように、高原状の盆地であるため、隔絶した感が強い。とくに近代以降、鉄道や道路も重要幹線がこの町を通らなかつたため、取り残された感があった。また呉方面から、芸南地方に至るルートも、昭和十年代、広島湾東側の海岸に移ってから、同様に、幹線から外れてしまった。

位置の不利性の克服

しかし、このような位置の不利な点を克服して、日本一の筆産業を興し、人口を集積して町を作り出したことは、熊野に住む人々の偉大なる努力と言わざるを得ない。

将来の位置

こうした隔絶した位置は、将来克服されるよう努力されるべきであり、それは、広島市矢野町から熊野町を経て、阿戸町、東広島市吉川、原地区を経て西条に至る高規格の優良な道路や、同じく熊野町を経て呉市に至る道路を作ることによって、重要な幹線交通路に沿うことになり、熊野町の発展に資する所が大となるであろう。

気候・気象上の位置

自然的、地形的位置のほかに、気候、気象上の位置も考えられよう。当町は盆地上で標高二五〇メートル内外の高さにあるため、瀬戸内海沿岸にありながら、冬季意外に寒い。それは沿岸より一、二度低いためである。したがって、沿岸で雨やみぞれのとき、熊野では雪のことが多

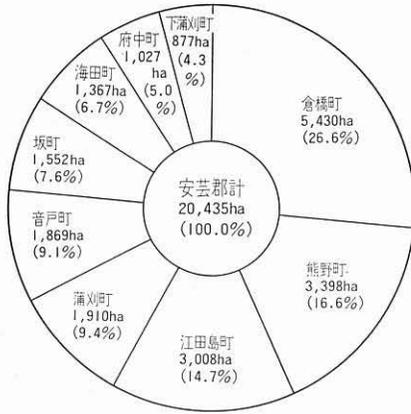


図1-1-3 安芸郡町村内における熊野町の面積

く、また積雪量も、やや多いようである。逆に、夏は日中ともかく、夜間沿岸部よりかなり涼しい。次に地名から、集落の位置関係をみよう。地名は地理的位置を示すことが多いが、熊野町も『芸藩通志』には「中古は橋賀村とも呼びぬ。はしかは端辺の意にて、郡の端にある処によるにや、されば熊野も本は限の処云々」とある。また熊野のくまは山の曲(くま)から起った語とも考えられ、山のくまにある野、つまり凹んだ盆地にある意と解してもよからう。

熊野の地名は、同じ『芸藩通志』に「此村の名は村内に熊野社を置く、故に名づくかと思ゆれど云々」とあり、建治三年(一二七七)のものと思われる小槻有家申状(壬生家文書)に、「御祈願所領安芸国阿土熊野保ハ、云々」とある。

熊野町中清にある榊山神社は、もと本宮八幡宮と称し、神功皇后以下三神を祀るが、『芸藩通志』所収絵図では、現在境内社の熊野本宮神社が、中央にあり、榊山神社よりも熊野本宮神社の方が勧請時期が古いことも考えられる。

このほか紀州新宮市と本町の地名が似通っているものもあり、紀州熊野と何らかの関係があったのであろうか。

二町 域

町域の変遷

熊野町の町域の変遷をみると、明治二十一年には安芸郡熊野村と平谷村、川角村かわすみであった。のち、

表 1-1-1 熊野町の面積と土地利用

地目別面積 (昭和61年1月1日)

第一節 位置・町域	区 分	総面積	田	畑	宅 地	池沼	山 林	原野	雑種地	そ の 他
	安 芸 郡	20,438.0 (100.0)	938.6 (4.6)	2,389.1 (11.7)	1,647.0 (8.1)	4.3 (0.0)	7,369.2 (36.1)	601.3 (2.9)	262.2 (1.3)	7,227.0 (35.3)
	府 中 町	1,027.0 (100.0)	14.2 (1.4)	35.2 (3.4)	286.5 (27.9)	1.2 (0.1)	413.0 (40.2)	—	25.0 (2.4)	251.9 (24.5)
	海 田 町	1,367.0 (100.0)	66.6 (4.8)	50.8 (3.7)	223.8 (16.4)	—	334.4 (24.5)	—	33.8 (2.5)	657.6 (48.1)
	熊 野 町	3,398.0 (100.0)	316.0 (9.3)	65.1 (1.9)	218.3 (6.4)	0.6 (0.0)	2,238.7 (65.9)	63.4 (1.9)	73.1 (2.2)	422.8 (12.4)
	坂 町	1,552.0 (100.0)	49.9 (3.2)	113.9 (7.3)	170.4 (11.0)	0 (0.0)	772.9 (49.8)	10.4 (0.7)	40.9 (2.7)	393.7 (25.4)
	江田島町	3,008.0 (100.0)	68.5 (2.3)	441.0 (14.7)	369.6 (12.3)	0.2 (0.0)	346.5 (11.5)	494.6 (16.4)	7.6 (0.2)	1,280.0 (42.6)
	音 戸 町	1,869.0 (100.0)	161.5 (8.6)	247.4 (13.2)	175.8 (9.4)	—	480.0 (25.7)	16.6 (0.9)	15.9 (0.9)	771.8 (41.3)
	倉 橋 町	5,430.0 (100.0)	231.6 (4.3)	626.3 (11.5)	122.0 (2.2)	2.3 (0.0)	1,904.9 (35.1)	16.1 (0.3)	26.8 (0.5)	2,500.0 (46.1)
	下蒲刈町	877.0 (100.0)	0.6 (0.0)	223.6 (25.5)	22.9 (2.6)	—	310.0 (35.4)	0.2 (0.0)	12.8 (1.5)	306.9 (35.0)
	蒲 刈 町	1,910.0 (100.0)	29.1 (1.5)	585.8 (30.7)	57.7 (3.0)	0 (0.0)	568.8 (29.8)	0 (0.0)	26.3 (1.4)	642.3 (33.6)

単位 ha (%)

固定資産概要調査を基本に分類・作成した

明治二十二年の町村合併により、平谷、川角は本庄村の一部となった。さらに大正七年には熊野町は町制を施行し、昭和六年本庄村の大字平谷、川角地区を編入して、今日に至っている。

町の面積は三三・九八平方キロで、安芸郡下では倉橋町に次いで二番目に大きい町である。しかし、広島県下では、それ程面積の大きい町ではない。

土地面積三三・九八平方キロのうち、民有租地は一五・五二平方キロで、宅地は一・九七平方キロである。

地目別面積

地目別面積をみると、第一表のようで、山林がもっと

も多く二、二三・八・七ヘクタールで全面積の六五・九%を占める。これは安芸郡下ではもっとも多く、内陸で山が多いことを示している。次いでその他が四二・二・八ヘク

タール(二・四%)、田が三一六・〇ヘクタール(九・三%)で、安芸郡下ではもつとも田の面積の割合が多く、農業地帯としての性格がかなり強く残っている。畑は六五・一(二・九%)と比較的少ない。宅地は二一八・三(六・四%)で、安芸郡下では少ない方であり、海田、府中に比較して、住宅地化、都市化が進んでいないようである。

このほか原野、雑種地などが、それぞれ六三・四ヘクタール(一・九%)、七三・一ヘクタール(二・二%)である。